

野原廣美先生を偲ぶ

人生の師匠 野原廣美先生を悼む

8期生 柳村光寛



退官記念祝賀会
当日の野原先生

「先生ご無沙汰しております。お元気ですか」
「いやーちょっと具合が悪くてねー」
「どうなさったんですか」
「胃の具合がちょっと」

年3回、野原先生を囲む会のご案内のお電話をさしあげたのが、昨年の9月でした。いつもの会を今回は「温泉でもいかがでしょうか」と電話した受話器の向こうから聞こえてきたのはとても信じられない内容でした。

私が先生を知ったのは33年前、学1の生化学の講義でありました。先生の講義は川の流れのように、よどみなくとても静かな雰囲気です。定期テスト前には膨大な分量となったものでした。そしてテストのヤマを見事にはずすのが先生の得意技で20種類の必須アミノ酸の構造式を徹夜で記憶したのも昨日の事のように。

卒業後、第二保存大学院に所属し、本格的に生化学教室にお世話になる事となりました。先生には4年間毎日、直接ご指導いただき、無知な私に研究することの意義と厳しさ、楽しさを教えていただきました。その結果を英文誌に掲載するにあたり全面的に加筆していただきました。今は亡き飯塚幸策先生と二王子岳に残雪深い5月に3人で

登ったことがありました。「君は独身だから昼食の準備をしてきたのでよかったですかね」とおっしゃってください、御心遣いにびっくりし感動したものです。その後も、8年間にわたり臨床と基礎を往復しながら大変お世話になりました。ご自宅にも何度かご招待いただき、私にとってこの時期は人生で最も充実していたように思います。

開業後も15年余り、かつて先生に大学院で御指導いただいた、長岡の山下智先生、上越の五十嵐文雄先生と、山崎和久教授を加えて変わらないおつきあいをさせていただきました。そのたびに、先生ほど若い世代に御自身の体験を伝える、語り部としてふさわしい方はいらっやらないと思いました。先生のお話は事実のほかに余計なものは加えず本質を突くもので、人間味に溢れた内容でとても楽しい雰囲気の中杯を重ねたものでした。若い時分には東大でロケットの研究をしたかったと話され、御自身の体験から戦争のような愚かなことは二度としてはならないと強調されておりました。新潟医科大時代は中距離選手として陸上で活躍され、退官後も埼玉より毎週、情熱をもって若者に新潟と村上で医学の講義をつい昨年末まで続けていただきました。御息様は医師として活躍されお嬢様、奥様に囲まれお元気であられた先生が病に倒れるなどとは思ってもみませんでした。電話の後は診療も手につかず自身の無力を感じたものでした。御見舞にお伺いしても、奥様をはじめとてもお気をつかいいただき泰然と対応されておられ、帰り際に右手を軽く上げ見送っていただいた姿が目に残っています。

御健在でいつまでも御指導いただきましたことに今はそれもないません。優しくした野原先生、人生の師匠であった野原先生、いつの日か皆で再会できることを念じております。ありがとうございました。合掌

野原廣美先生を偲んで

9期生 山下 智

昨年の秋ごろからだったでしょうか。毎年必ず2～3回は先生を囲んで大好きな酒を数人で酌み交わし人生を語り合った会が、突如中断してしまいました。検査入院で胃がんと診断を受け、手術を受けなければならないとのことでした。更に先生は学生の頃から陸上部で長距離走を得意とし、これといった大病もせず体力に自信があると伺っておりましたので、4月20日に御逝去されたとの報を受けたときは思わず耳を疑いました。謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

先生は私の父と同年齢で、出会った頃はいつもお会いする度に私を息子のように、時には厳しく、時にはやさしく可愛がってくださいました。「山下君のお父さんはうらやましいね。僕の息子なんかまだ小さくてね。成人式の頃には僕はもう定年だよ。」といつも嘆いておられたことが印象的でした。

私は、昭和54年に卒業と同時に大学院（歯周治療学）に入り、基礎研究のため口腔生化学教室で4年間（旧第2保存学教室より里子に出され）お世話になりました。（蛇足ですが、8期生の柳村先生は私の1年前に里子に出されました）その時の指導教授が野原先生でしたが、私自身、学生時代の講義でのイメージしかありませんでしたので、不安を抱いての生化学教室入りだったことを覚えています。しかしこれも一瞬の杞憂に終わり、野原先生を始め個性的な口腔生化学教室のスタッフの人情に触れ、厳しいながらも生涯忘れえぬ貴重な体験をさせていただきました。ただ、地道にコツコツと何回もやり直しながら根気強くデータをとってゆく基礎的研究は、私の苦手とする分野でもありました。ある時、資料の分析のためカラムでの抽出を途中で投げ出し、帰ってからゆっくりやろうと柏崎の国立療養所にアルバイトに行ったときのことで、夕刻大学に戻り、いざ測定が続きに取り掛かろうと7階にたどり着いたそのときの光景は今も忘れられません。これから私が測定をしようとする場所には既に白衣を着た野原先生

の後姿がありました。先生は、私に代わって1本1本試験管の検体をスペクトロフォトメーターで測定されていたのです。一介の院生たるそれも他の教室からの里子である私ごときのために、教授自らが手を差し伸べてくれたことへの感謝と畏敬の念で、一瞬胸が詰り涙が込み上げてきたそのときの感動は今でも忘れられません。また先生は御多忙にもかかわらず、時として私の実験中に「どうだね？」と声をかけてくださることがよくありました。いい加減な回答をすると、「えっ??」と独特の一寸心臓にドキッとさせる御返事が返ってきたこともありましたが、実験が滞ったり暗礁に乗り上げたときは、当意即妙、実に適切な打開策で私を助けてくださいました。大学院を修了後は、生化学に顔を出す機会もやや減りましたが、生化学で実験した一連の研究の集大成でもある論文をJ.Periodontologyに投稿する際、再び先生の薫陶を受けました。先生と苦労に苦労を重ね、ようやくアクセプトされた時のあの感動は今でも忘れません。「山下君よかったねー。おめでとう」先生は自分のことのように喜んでくれました。

泰然自若なお人柄である先生は、パニックになった私にいつも冷静さを失わないよう指導してくださいました。25年以上お付き合いさせていただきましたが、私は先生の怒った姿を見たことがありません。先日8月13日の新盆に柳村先生と埼玉県の上尾を訪れ、御家族の方とお話をした際にも、同様と伺いました。決して自分を見失わない冷静沈着な先生のお人柄が偲ばれます。趣味も広く、野球やプロレスなどのスポーツや車の話題で盛り上がったこと、また酒の席では終始陽気に振舞われ、興に乗ると少々毒舌なせりふも飛び出し我々を楽しませてくれたことも今は懐かしく思います。

野原先生、長い間本当にお世話になりました。生まれ故郷の埼玉の地でどうぞ安らかに眠りください。合掌。

野原廣美先生を悼む

口腔生命科学系列・教授 山崎和久
(口腔生命福祉学科)

平成18年4月20日、私たち後輩に多くのものを残して、野原先生が79歳の生涯を閉じられました。

野原先生は昭和26年、新潟大学医学部の前身、新潟医科大学をご卒業の後、新潟大学医学部生化学講座を経て、昭和41年口腔生化学講座（当時）の助教授として歯学部に着任され、翌42年教授に昇任されました。以来平成4年に定年退官されるまで学生教育と研究に情熱を傾けて来られました。

私は昭和56年に大学院に入学し、歯周病学を専攻しましたが、研究は4年間口腔生化学講座で野原先生の指導の下、多型核白血球の産生する酵素と歯周組織の炎症の関係について調べました。先生はお忙しい中、歯科保存学第二講座の先輩大学院生であった柳村光寛先生、山下智先生（現長岡市開業）とともに実験機会の使い方や実験記録の仕方などをはじめとほんとうに親身の指導をしていただきました。ある日、アルバイトで柏崎に行く前、朝6時に実験のセットをして出掛け、夕方帰ってくると、野原先生が測定をして、おまけにグラフまで書いてくれていたことがあり、戻るとすぐ結果の検討をすることができました。データのディスカッションでは問題点と対策法そして次の課題はどうするかなど細かい指導を受け、サイエンスはこういう風に進めるのかと納得すると同時に科学者としての野原先生に感服していました。データを持って教授室に訪ねて行くと、先生は必ずと言っていいほどいつも学術雑誌を讀んでいて参考になる文献を渡してくれるなど、常に私たちの研究を考えてくれたように思います。時に厳しく、時に父親の様な優しさで接してくれた野原先生と生化学講座の先生方そして先輩大学院生のおかげで当時、外来診療とアルバイトをする日以外のほとんどの時間を口腔生化学で過ごし、それこそ盆も正月も、昼も夜もないような

生活をしていましたが、つらいと思ったことは一度もありませんでした。

野原先生はまた、愛煙家のうえにお酒が大好きで、酔っぱらった先生は豪放磊落でそれはそれで大変魅力的な姿を見せてくれました。それまで酒に弱く、缶ビール1本も飲めなかった私を酒のうまさ分かる人間に変えてくれたのも野原先生でした。毎年お正月には先輩大学院生と一緒にご自宅に招いていただいて深夜までごちそうになり、足もともおぼつかない状態で家に帰ったことを思い出します。

定年退官されたあとも生化学講座でお世話になったOBが集まって野原先生を囲む会を開催し、時々参加させていただいておりましたが、ここ1-2年はめっきりお酒の量も減り、弱くなったなと思っていましたが、今から思うと病魔が徐々にむしばんでいたのかもしれない。昨年（平成17年）の秋ごろに胃ガンの手術を受けられ、その後お見舞いに伺った折には予想したよりもお元気そうで、安心したのもつかの間、本当に残念なことになってしまいました。

先生から学んだサイエンスに対する思いは必ず後輩に伝えていきます。野原先生安らかにお眠りください。



ありし日の野原先生と診療室にて